

# 大阪大学 赤井伸郎ゼミ 執筆論文ダイジェスト集 (2022-2024)

赤井ゼミでは、実証分析を用いた政策提言型の論文を執筆しています。  
この冊子では、赤井ゼミが過去に執筆した論文を簡単にご紹介します。  
論文はゼミHPからアクセスできますので、ぜひご覧ください。

## 橋梁メンテナンスの確立を目指して

～安心して使い続けられる橋梁の実現～

(2022 年度)

### 【論文の内容】

急速に老朽化が進む社会資本において、道路はストック量や維持管理総額で最も大きな割合を占めている。道路の中でも、市町村が管理する橋梁は、修繕等の措置が必要であると認識されているにも関わらず、適切なメンテナンスがされていないものが多数存在している。本稿では、「人材不足、予算不足により市町村管理橋梁の措置が進んでいないこと」を問題意識とし、これまでに二度点検された市町村管理橋梁のデータを用い、判定区分の変化に影響を与える要因を分析した。分析結果と自治体に対するヒアリング調査を基に、市町村における人材不足の量・質、予算不足の問題に対応した政策提言を行った。

### 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 優秀賞
- ISFJ 日本政策学生会議 最優秀政策提言賞

二度点検された橋梁の判定区分の変化に着目し、膨大な橋梁のデータを用いて分析を行った点、現状分析から仮説設定、政策提言までの流れが論旨明快にまとまっている点が評価された。自治体の現状を把握するため、丁寧にヒアリング調査を行い、現状に即した政策提言が行われている。

## マイナンバーカードの更なる普及に向けて

(2022 年度)

### 【論文の内容】

近年行政のデジタル化が進みつつあり、その促進手段としてマイナンバー制度とそれを最大限に活用するマイナンバーカードが注目されている。本稿ではマイナンバーカードの更なる普及阻害要因の中でも、自治体のリソース不足や自治体と国との連携、市民のセキュリティ不安といったものに着目し、それぞれが普及率に与える影響を実証した。また、実証の結果をより強固にするために総務省や普及が進んでいる先進自治体等にヒアリング調査も行った。以上の分析結果を踏まえ、行政側・市民側の双方の普及阻害要因にアプローチした政策提言を行った。

### 【表彰・評価】

●ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

近年注目されているマイナンバーカードの普及に着目し、行政と市民それぞれが持つ普及阻害要因を分析している論文である。ヒアリングなどを用いて、緻密な分析や政策提言を行っている部分が評価された。

## 魚類養殖の経営改善による発展に向けて

(2022 年度)

### 【論文の内容】

日本の魚介類自給率は 60%を下回り、多くを輸入に頼っているが、国際的な水産物価格は上昇しており、買い負けも発生している。したがって、国内生産を強化すべきだとし、海洋環境や資源をめぐる現状より、魚類養殖に着目した。魚類養殖業者の経営はひっ迫していることから、その改善による魚類養殖の発展を研究目的とした。分析では、魚類養殖業者の経営難について、生産コストの増加が販売額に転嫁されないことを示した。その上で、現行政策のシミュレーション分析と定性分析を行い、経営安定化のための政策を提言した。

### 【表彰・評価】

●WEST 論文研究発表会 最優秀論文賞

●ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

食料安全保障などの観点から、意義のあるテーマ設定である。また、消費者にとって食料の価格が上がるのは望ましくないため、価格転嫁ではなくコスト削減によって経営を改善するという策も現実的である。第一次産業では後継者問題が注目されるが、利益の多い経営体には後継者が存在するという事例が多い。本論文で提言された経営に関する政策は、後継者問題にも一石を投じる。

# こどもの教育格差是正を目指して

～こどもの居場所を通じた学習意欲向上～

(2023 年度)

## 【論文の内容】

現在 8 人に 1 人のこどもが相対的貧困に陥っており、これらのこどもは教育格差にも直面している。格差の連鎖を防ぐために教育支援に着目したが、こどもの意欲がなければ支援は活用されない。そこでこどもの学習意欲を形成するために、現状行われている経済支援ではなく、家庭内外のコミュニケーションといった非経済的支援に着目し、分析でどのような非経済的な要素がこどもの学習意欲に影響するか明らかにした。分析結果から、家庭外におけるこどもの居場所の必要性が明らかとなったため、こどもの居場所に取り組む団体や自治体へヒアリングを行い、現場の課題を特定した上で、こどもの居場所のさらなる促進につながる政策を提言した。

## 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 分科会賞
- ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

定量分析とヒアリングなど定性分析を踏まえ、こどもの居場所に関して緻密な論理構成ができていた。政策提言も丁寧にまとめられているが、提言した政策でどの程度問題解決が行われるのか、政策の立ち位置についての議論があればよりよいとご講評をいただいた。

# 2040 年問題を見据えた介護士不足の解消

(2023 年度)

## 【論文の内容】

現在、日本は少子高齢化による急速な人口減少と高齢人口の増加に直面しており、2040 年には生産年齢人口が現在の約 8 割まで減少すると推定されている。それに伴い、介護士の需給ギャップの発生が予想され、新たな介護職員の参入と現職員の定着促進が求められている。それらに向けた取り組みとして、厚生労働省は、介護職の職業構造の転換のための政策を掲げている。その内、本稿では、限られた人材を有効活用するために、介護人材が各々の技量・役割に応じて適切な職務にあたる「機能分化」を進める政策に注目した。機能分化が各介護事業所の離職率へ与える影響についての定量分析と、機能分化の促進阻害要因の定性分析を行った。分析結果とヒアリング調査をもとに、全国的な機能分化推進を目的とした政策提言を行った。

## 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 分科会賞
- ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

本論文は、介護現場における機能分化が介護士の離職率低下に貢献することを明らかにした上で、政府・自治体・介護事業所の三者の連携による機能分化の全国的推進、ひいては 2040 年の介護士不足解消を実現することを目指した論文である。現状分析の綿密さに加え、問題提起から政策提言とその効果までの論理が一貫している点が評価された。

## 空港の経営改善に向けて

～空港コンセッションに着目して～

(2023 年度)

### 【論文の内容】

空港は、航空サービスを提供する社会資本であり、都市の再生・地域間交流の拡大・地域の振興において重要な役割を果たしている。また、航空需要の拡大や観光立国政策の推進により、今後も空港の重要性は高まると考えられる。一方、日本の空港の大半が赤字で、国や地方の財政を圧迫しており、空港を効率的に運営することが求められる。近年、民間の能力を活用した「空港コンセッション」が注目されているが、その導入は一部にとどまっている。本稿では、空港コンセッションの効果を定量的に明らかにした上で、導入時における自治体側の障壁を考察した。分析結果とヒアリング調査をもとに、国や自治体による空港コンセッションの導入を促進するための政策提言を行った。

### 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 分科会賞
- ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

本論文は、コンセッションの導入効果を明らかにした上で、自治体の導入障壁を取り除き、今後さらに広範な空港への導入を促進することを目指した論文である。現状分析から政策提言までの流れが論旨一貫している点、また丁寧なヒアリング調査を行い、自治体の声を反映させた提言がなされている点が評価された。

## 大規模地震を見据えた水道基幹管路耐震化の実現

～DX化・広域化の観点から～

(2024 年度)

### 【論文の内容】

日本は地震大国であり、今後も大規模地震の発生が予測される。震災時において、ライフラインの維持は被災者の生活や災害関連死の増加に直結する。水資源が災害時の人命保護に直結している点と水道事業体のほとんどが公営企業である点から、水道の防災は政府の介入余地が大きいと考え、本稿では水道施設の防災に注目した。また、日本社会の人口減少とそれに伴う水道事業体の料金収入減少という観点から、本稿では今ある人的・物的・金銭的資源の有効活用のための DX 化・広域化に着目し、水道基幹管路の耐震化との関係を定量的に分析した。加えて DX 化・広域化の阻害要因を分析した上で、それにアプローチする政策提言を作成した。

### 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 アイディア賞
- ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

本稿は DX 化・広域化という手法から水道基幹管路の耐震化促進を試みた論文である。また、緻密な現状分析や現状分析から政策提言までの一貫性が評価された。

# 浸水被害による資産損失の低減に向けて

## ～地理情報データによる浸水リスク地域の分析～

(2024 年度)

### 【論文の内容】

近年、記録的な大雨とそれに伴う浸水被害が増加しており、災害リスクが高まっている。また、立地適正化計画は、人口密度の維持を目的として居住誘導区域を設定しているが、浸水リスクが十分に考慮されておらず、家屋の資産損失の危険性が上昇している。そこで本稿では、GISを用いた被害棟数や地価の定量的分析に加え、都市計画と水害対策に関するヒアリング調査を実施した。これらの分析をもとに、浸水リスク地域における資産損失を低減させ、住民が安心して住み続けられる都市計画の実現を目指すための政策提言を行った。

### 【表彰・評価】

- WEST 論文研究発表会 優秀賞
- ISFJ 日本政策学生会議 優秀賞

本稿では、災害の激甚化により近年高まりつつある浸水リスクと最近新しく策定された立地適正化計画の重複が引き起こしている現在進行形の問題を解決しようとした論文である。また、GIS データを用いて町丁目ごとに浸水被害の分析を行い、適切な分析モデルを用いたことで作り込まれた緻密な分析であると評価された。